

# 室蘭工業大学 (2019年リーグ戦2部優勝・1部昇格)

昨年の2部リーグを4戦全勝で制し、1部最下位の札幌大との入れ替え戦も快勝して6年ぶりの1部復帰を果たした室蘭工業大。試験週間前最後の練習日となった8月9日は、あいにくの雨天で練習中止になり、室蘭市水元町の同大グラウンドに集まったWRの吉田拓真副将(4年)ら4選手は残念そうに雨空を見上げた。

古豪復活に意気込む今季の室蘭工業大だったが、新型コロナウイルスによる2月28日の道の緊急事態宣言を受け、新学期直前の3月25日に大学が課外活動の自粛を求め、4月2日には活動禁止とグラウンドなど関係施設の使用禁止を決定。アメフト部も全体練習中止に追い込まれた。2年生以上の選手12人とスタッフ4人は週3日、リモートによる筋力トレーニング、パートごとに学外でのランニング、公園を使い合同のサーキット練習などで地道な努力を重ねた。

胆振地方の新型コロナウイルス感染症の沈静化を受けて大学は6月22日に「行動指針」を「一部制限」にあたるレベル1に緩和。課外活動については「感染拡大に最大の配慮をして一部を許可」と変更した。アメフト部も感染対策と練習計画をまとめた書類を大学側に提出し、7月25日からの全体練習再開にこぎつけた。吉田副将は「練習再開が決まってうれしかったが、前年より戦力がダウンし、人数も不足。1部のどのチームよりも不利なので、いろいろ考えてやらねばと実感した」という。

部員同士の仲の良さをアピールしたインスタグラムがきっかけで入部した1年生1人を加え、再開した週4日の全体練習は基本の確認から始まった。コンタクトはできないが防具を身につけ、パスやハンドオフ、ラインメンの動き出しなどを2週間繰り返した。3週目となった8月4日からはDBのバックペダルなどより実戦を想定した練習も加わった。試験期間前に、少しでも感覚を取り戻そうと必死だった。

2週間の試験期間が開ける8月24日の週からが、10月第1週のリーグ戦開始に向けた本格的な練習になる。RBリーダーの加藤裕哉(4年)は「準備期間が短いので、プレーの基礎を見直したい」という。伝統の「ゴリゴリ」のランプレーの主役はRB。「1部で戦い続けるための基礎固めをする」と力を込める。今季から

QBを務める中島崇雄（3年）は「タイミングの合わせ方など心配もあるが、一つずつこなしていく」と前を向き、ラインの中核となるC遠藤智裕（3年）も「7人の3年生が力を合わせたい」と意気込む。

室蘭工業大は1976年創部で、道内では札幌大、北海学園大、北海道大に次ぐ歴史を誇る。吉田副将は「リーグ戦が始まれば、午前4時半に室蘭をレンタカーで出発して札幌へ行くこともある。専属の監督やコーチもないチームだけど、試験週間明けの1カ月あまりで何とかチームを仕上げたい」と古豪の意地を宣言した。

（おわり）



【グラウンド隣接の防具室で秋季リーグへの決意を見せる

吉田副将（右から2人目）ら室蘭工業大の選手たち】